

風通織

◆『風通織』とは、2色以上の縦糸、横糸を使用する二重、三重織の代表。織物の中に空気が含まれ、風が通るという意味で名付けられている。本提案では、春日部の歴史や自然、交通網、商業などを織物を成す糸に見立て、それが絡まっていたり、切れていたりするところを修復していく作業をイメージしている。一枚の織物として織り上げられたとき、その中で賑わいや活力の風が流れ、街全体に広がる様子を『風通織』という言葉に託した。

〔1〕街に縦糸をとおす、高架下空間のデザイン

新たな鉄道高架化下空間には、東西市街地をつなぐ路地＝縦糸を何本も通し、にぎわいの風を吹かせる。新しい空間は既存の商店街に対して競合するのではなく、街への人の流れを生み出す装置としてあるべきと考え、フットサルコートやライブラリー＋カフェなど、市民の活動の場を置くことを提案した。

〔2〕劇場都市かすかべを牽引する、駅前空間のデザイン

駅前広場ではウッドデッキや緑のマウンドなど、市民の多様な活動を可能とする柔軟なデザインとした。また、劇場都市かすかべとは演者・観客・裏方全てを市民が担い活躍する都市であると考え、活動を街全体に展開する運営組織も市民主体とする可能性を提案した。

〔3〕駅前空間と連携する歩行者モールのデザイン

西口駅前広場から街の両翼に広がる歩行者モールを、駅前広場とダイナミックに一体化させた。駅を降りたときの視認性、人々の賑やかな活動と開放的な空間がモールの魅力を引き立てる。

〔4〕春日部の魅力を再発掘する歴史色商店街のデザイン

宿場町の活気を支えてきた蔵や建物が残る貴重な道を、歩行者の糸に位置付け、春日部市民に愛される商店街として再生することを提案した。

〔5〕街の輪郭を縁どる大落古利根川のデザイン

春日部の中心市街地は、その縁を大落古利根川が流れ、都市と自然が近づいた貴重な構図をしている。街で自然を感じられる関係性を生み出し、街に風を送り込む。

風通しのよい街という考え方の中には、夏の暑さを和らげる自然の風を街に呼び込む工夫の必要性や、また目指す都市像を市民自らの手で実現する、組織というもうひとつの織物の提案も含めた。